

平成 26 年度 教員活動評価実施報告書

1. 概要

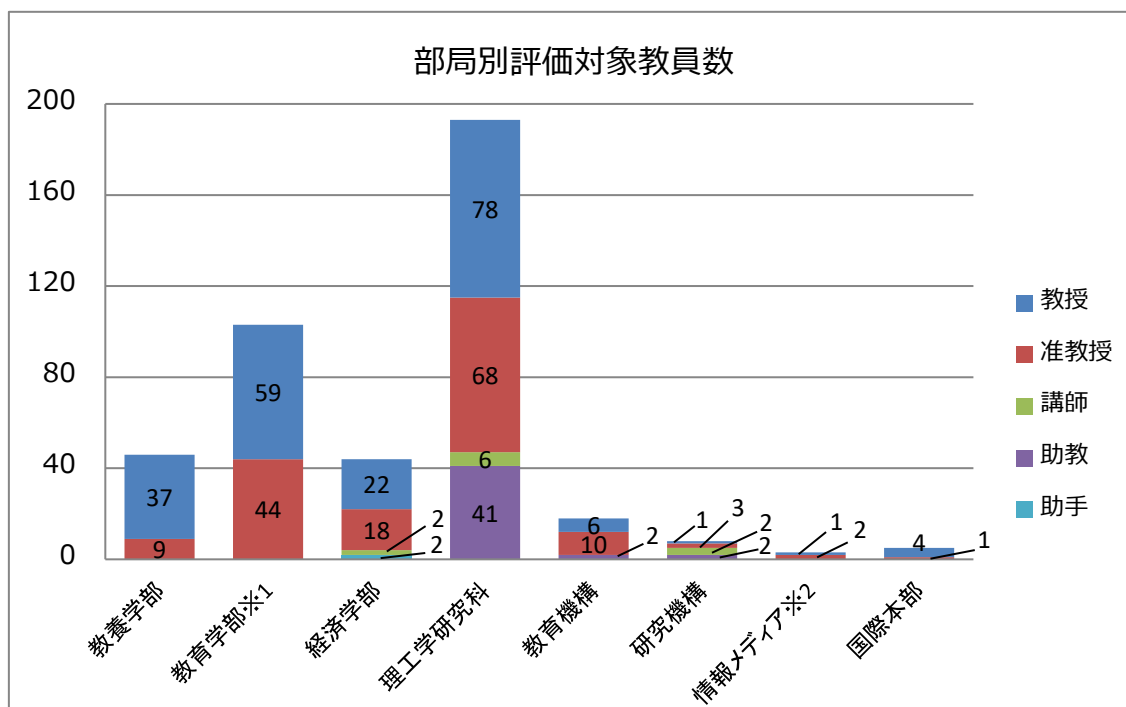
本学では、「教員個人の活動状況を点検することによって、その活動の一層の活性化を図り、本学の教育・研究の質の向上と運営等の改善に資する」という目的の下に、例年、教員個人の教育研究等の活動評価を実施している。平成 25 年度の教員活動についても、下表のとおり評価を実施した。

実施期間	教員活動報告書提出期間:平成 26 年 6 月 9 日 (月)～平成 26 年 7 月 22 日 (火) 部局長評価期間:平成 26 年 8 月 21 日 (木)～平成 26 年 11 月 17 日 (月)
対 象 者	平成 26 年 4 月 1 日現在で本学に在籍している教員 ※新規採用教員、休職中の教員及び教諭は除く
対象領域	4 領域 (教育活動、研究業績、大学運営への貢献、社会への貢献)
評価対象期間	平成 25 年度実績 (研究に関して過去 2、3 年間の業績に基づき評価する部局あり。)
提 出 者	全評価対象者 418 名 (提出率 100%)

2. 評価の実施体制、方法

「埼玉大学における教員活動評価の基本方針」、「埼玉大学における教員活動評価の実施要項」、各部局の教員活動評価実施要領に従い、評価対象教員が提出した平成 25 年度実績分の教員活動報告書に基づいて、部局長が所属教員の評価を行った。

3. 評価対象教員数



※1 附属教育実践総合センターは教育学部に含む。※2 情報メディアは情報メディア基盤センターの略。

4. 評価の尺度

3. 活動は極めて優れている
2. 活動は期待される水準に達している
1. 活動は不十分で改善を要する

5. 全体の評価結果

埼玉大学は、地域活性化の中核となり、世界/日本の教育研究拠点として光を放つことを目指して、改革を進めてきている。そこで、教育、研究、社会貢献の3領域について、教員活動を概観する。

大学全体でみると、教育領域で3の評価を受けた教員の割合は約30%、2の評価は約69%、1の評価は1%であった。研究領域では、3の評価は約39%、2の評価は約54%、1の評価は約7%であった。社会貢献領域では、3の評価は約32%、2の評価は約60%、1の評価は約8%であった。3領域のバランスをみると、研究領域では4割近い教員が3の評価を得ているのに対し、教育領域と社会貢献領域は3割程度である。このため、教育領域と社会貢献領域では、より向上が求められるといえる。

教育領域について、本学は、平成25年度、①理工系人材育成の量的・質的強化のため、理工系人材育成戦略を踏まえて理工学研究科博士前期課程の定員増や学士・修士6年一貫教育の実施を決定し、②人社系人材育成の質的強化のため、既存の文化科学研究科と経済科学研究科を統合して人文社会科学研究科の設置を決定し、③教員養成の質的強化のため、教育学部の組織改革、カリキュラム改革、入試改革を行うとともに教職大学院の設置も決定した。各部局が組織としてこれらの取組みを実施するとともに、各教員がこれらの取組みを理解して、教育活動の一層の向上に努めることが求められよう。

社会貢献領域では、日経BP社の「大学ブランド・イメージ調査2014－2015」【首都圏版】でのブランド評価結果において、本学は「地域社会・文化に貢献している」で1位を2年連続で獲得するなど、外部から高い評価は得ている。ただ、この評価は熱心に社会貢献に取り組んでいる一部の教員の努力によるところが大きい。この評価を維持しつつさらに地域の活性化に貢献するよう、より多くの教員が積極的に社会貢献に取り組むよう部局として工夫することが必要であろう。

研究領域でも、本学は、より高い研究水準を目指して、平成25年度に、強みを有する研究分野への資源集中として戦略的研究部門（ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域）を設置することとした。この部門の成果は平成26年度以降に見られることとなる。この部門に重点配置される教員の研究活動がより活性化することはもちろん、他の教員もこれらの教員と競ってより一層の研究活動を行うことが期待される。

各部局の評価は、今年度も全体としておおむね適切に行われていると評価することができる。もっとも、部局横断的に見ると、領域によっては各部局ごとに評価の分布が大きく異なっている。部局によって評価基準が異なるために単純な比較ができないことはもちろ

(内部用)

んであるが、3の割合の低い部局に教員活動の一層の活性化のための工夫を求めるとともに、3の割合の高い部局には、より高い水準を目指しての評価基準の検討も望みたい。また、各部局で把握している課題については、次年度へ向けて、教員活動のさらなる活性化のために改善に積極的に取り組むことを期待する。この点で経済学部が、部局長コメントで具体的な取組みを記述していることは注目に値する。評価及び改善の取組みを可視化することは、今後一層求められるので、とくに評価の結果明らかになった課題とそれに対する改善策について、部局長コメントをより充実させることを求めたい。さらに、本学の教員活動の優れた点を外部に積極的に公表していくことも必要となるので、そのような活動についてコメントで言及することも求めたい。

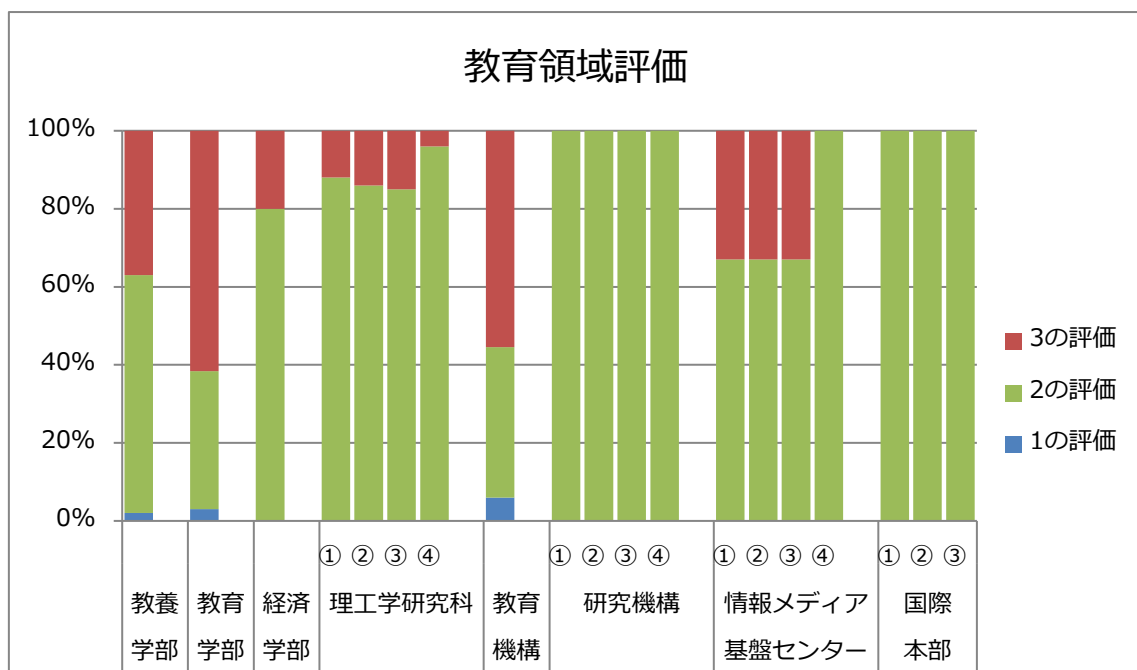
(内部用)

6. 領域別評価結果

各部局の評価結果を領域ごとにグラフ化した。領域評価を実施しない部局については、領域内の項目をすべてグラフ化した。

○教育領域

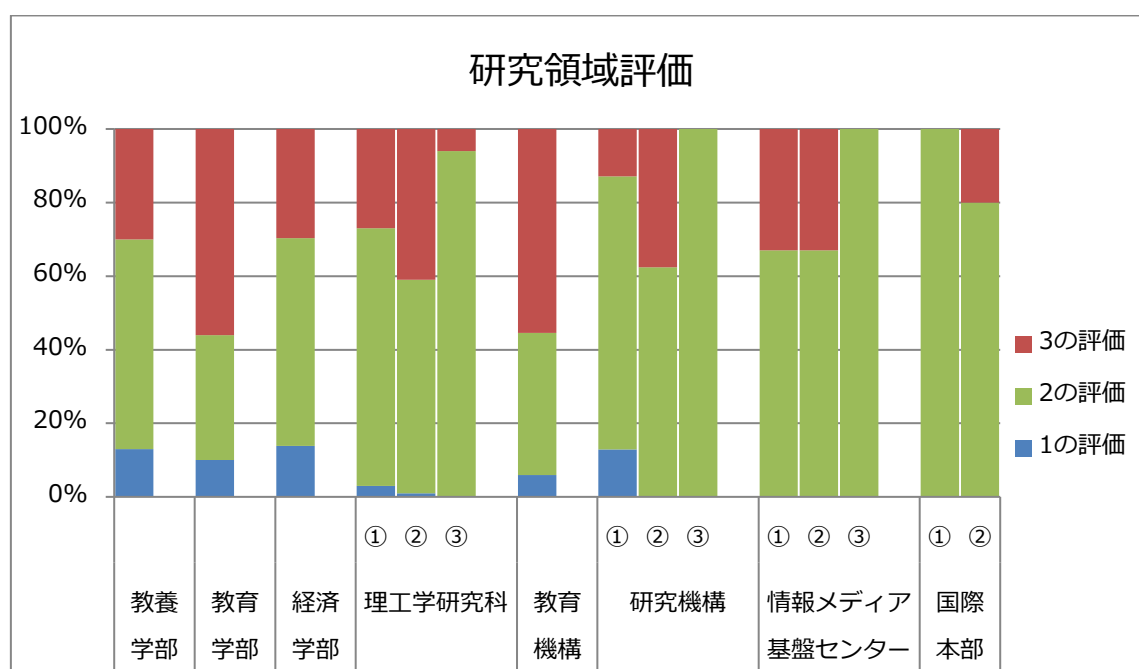
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
教養学部		1	2%	28	61%	17	37%
教育学部		3	3%	37	36%	63	61%
経済学部		0	0%	35	80%	9	20%
理工学研究科	①講義・演習・実験	0	0%	169	88%	22	12%
	②研究指導	0	0%	164	86%	27	15%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	163	85%	28	15%
	④その他の教育活動	0	0%	184	96%	7	4%
教育機構		1	6%	7	39%	10	56%
研究機構	①講義・演習・実験	0	0%	8	100%	0	0%
	②研究指導	0	0%	8	100%	0	0%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	8	100%	0	0%
	④その他の教育活動	0	0%	8	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①講義・演習・実験	0	0%	2	67%	1	33%
	②研究指導	0	0%	2	67%	1	33%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	2	67%	1	33%
	④その他の教育活動	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	①プログラムの企画・実施・改善	0	0%	5	100%	0	0%
	②教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	5	100%	0	0%
	③大学内外との調整/留学生相談等	0	0%	5	100%	0	0%



(内部用)

○研究領域

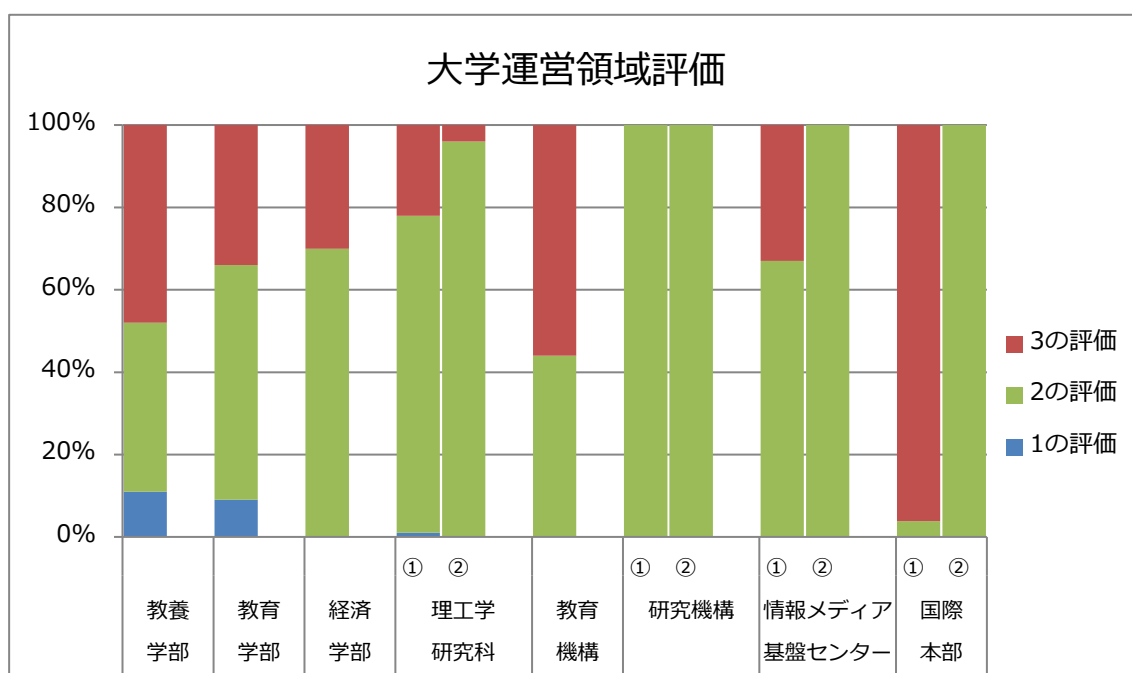
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
教養学部		6	13%	26	57%	14	30%
教育学部		10	10%	35	34%	58	56%
経済学部		6	14%	25	57%	13	30%
理工学研究科	①研究・開発の成果	5	3%	134	70%	52	27%
	②研究・開発活動	2	1%	111	58%	78	41%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	179	94%	12	6%
教育機構		1	6%	7	39%	10	56%
研究機構	①研究・開発の成果	1	13%	6	75%	1	13%
	②研究・開発活動	0	0%	5	63%	3	38%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	8	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①研究・開発の成果	0	0%	2	67%	1	33%
	②研究・開発活動	0	0%	2	67%	1	33%
	③その他の研究・開発活動	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	①研究業績	0	0%	5	100%	0	0%
	②大学内外との調整	0	0%	4	80%	1	20%



(内部用)

○大学運営領域

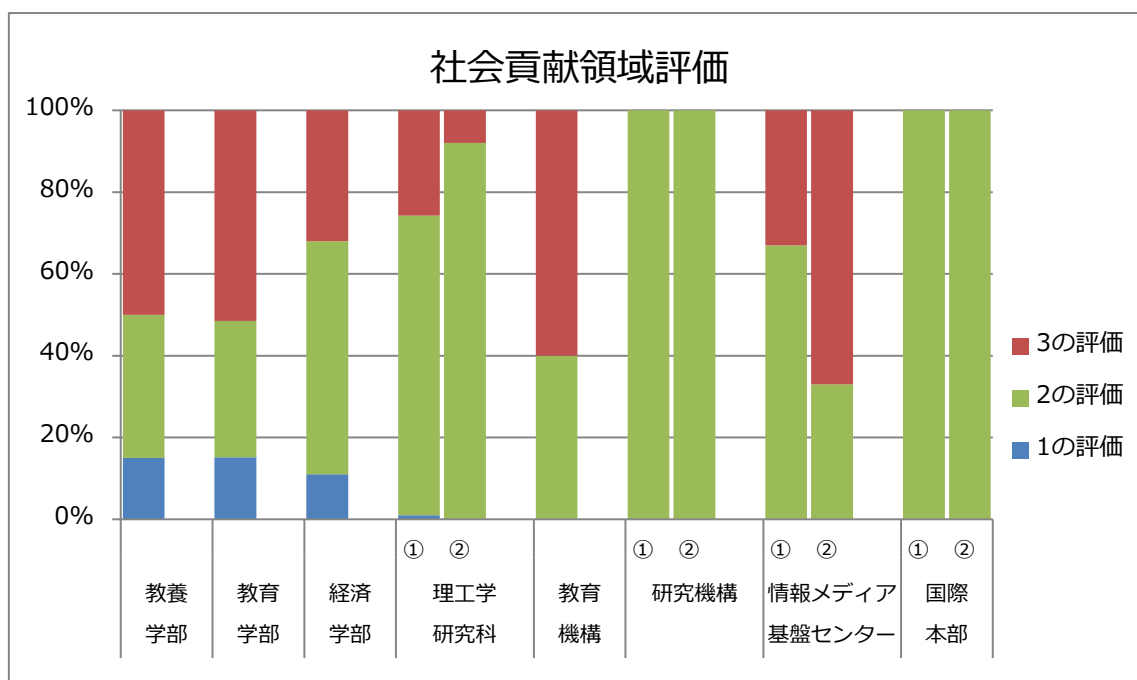
部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
教養学部		5	11%	19	41%	22	48%
教育学部		9	9%	59	57%	35	34%
経済学部		0	0%	31	70%	13	30%
理工学研究科	①委員会活動	1	1%	148	77%	42	22%
	②その他の大学運営	0	0%	183	96%	8	4%
教育機構		0	0%	8	44%	10	56%
研究機構	①委員会活動	0	0%	8	100%	0	0%
	②その他の大学運営	0	0%	8	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①委員会活動	0	0%	2	67%	1	33%
	②その他の大学運営	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	①国際化への貢献	0	0%	4	80%	1	20%
	②学部資金獲得等への貢献	0	0%	5	100%	0	0%



(内部用)

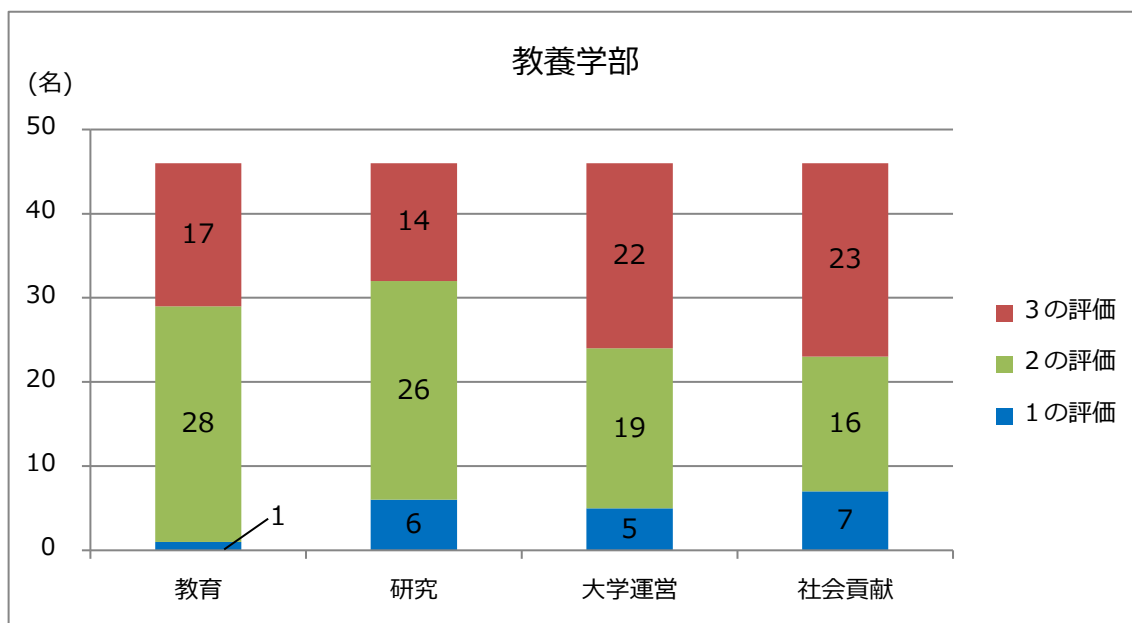
○社会貢献領域

部局名	評価項目	1の評価		2の評価		3の評価	
		人数	%	人数	%	人数	%
教養学部		7	15%	16	35%	23	50%
教育学部		15	15%	34	33%	54	52%
経済学部		5	11%	25	57%	14	32%
理工学研究科	①学会活動	1	1%	141	74%	49	26%
	②その他の社会貢献	0	0%	176	92%	15	8%
教育機構		0	0%	4	40%	6	60%
研究機構	①学会活動	0	0%	8	100%	0	0%
	②その他の社会貢献	0	0%	8	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①学会活動	0	0%	2	67%	1	33%
	②その他の社会貢献	0	0%	1	33%	2	67%
国際本部	①連携協力	0	0%	5	100%	0	0%
	②JICA等との連携協力/その他	0	0%	5	100%	0	0%



7. 部局別評価結果

(1) 教養学部 (領域評価、評価対象人数:46 名)



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	17	37%	14	30%	22	48%	23	50%
2の評価	28	61%	26	57%	19	41%	16	35%
1の評価	1	2%	6	13%	5	11%	7	15%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

従来の4領域合算の評価方式によれば、総合的に評価が高い教員数は11名だった。従来に沿った数字である。

② 評価の低い教員

従来の4領域合算の評価方式による、評価の低い教員はいなかった。

③ 評価結果の総括、問題点等

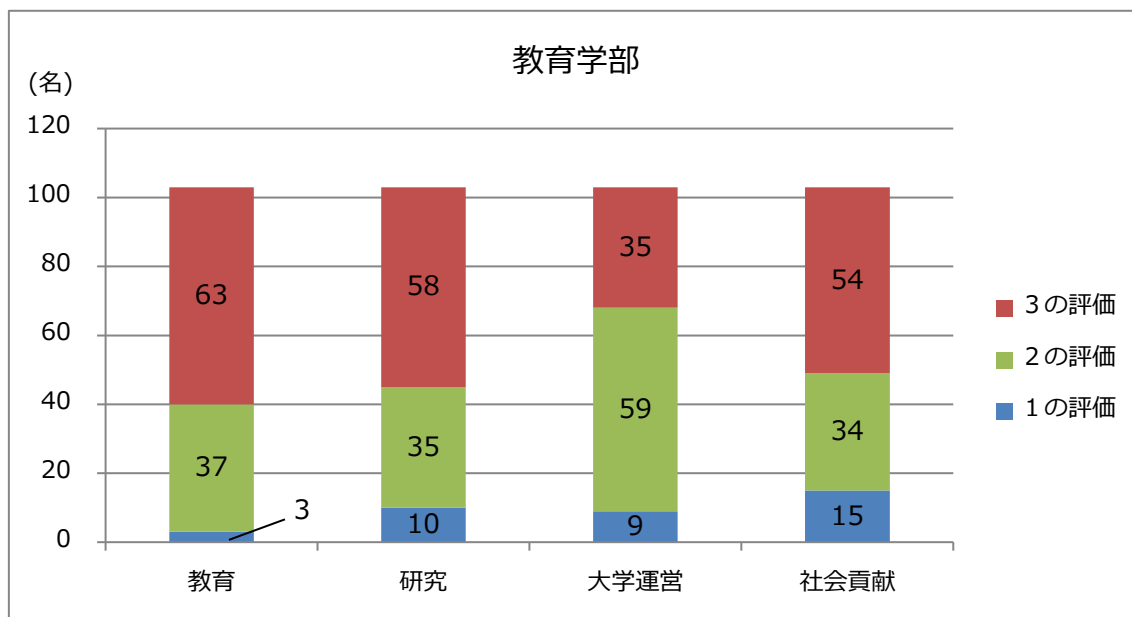
今年度の評価では、評価の高い教員の所属専修課程に偏りが見られた。この点は専修ごとに年齢構成に差があるためと思われる。特に大学運営に関しては、どうしても働き盛りの年齢の教員が多い専修課程で点数が高くなる可能性がある。教養学部ではグローバル人材育成事業を行っているが、その事業のために雇用した教員については、他の教員とミッションが異なり、同じ方法を適用するのは不適切であったかもしれない。グローバル事業へのミッションが大きい教員向けに公平に加点ができるようにすることを検討したい。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(2)教育学部（附属教育実践総合センターを含む）（領域評価、評価対象人数 103 名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	63	61%	58	56%	35	34%	54	52%
2の評価	37	36%	35	34%	59	57%	34	33%
1の評価	3	3%	10	10%	9	9%	15	15%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

評価の高い教員数（すべての領域が3）は8名である。

② 評価の低い教員数

評価の低い教員数（2領域以上が1）は5名である。

③ 評価結果の総括、問題点等

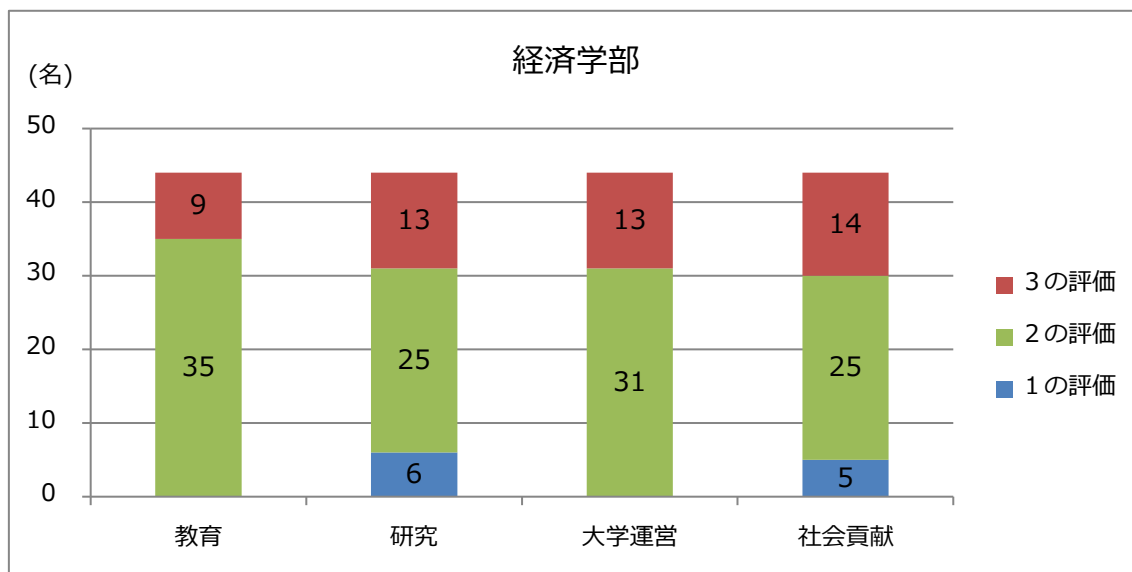
教育活動はおおむね期待しうる水準にあった。研究活動と大学運営はまだ十分力を発揮できていない教員が1割程度いた。社会貢献では、各種委員や講演等を全くしていない教員が意外と多かった。専門分野により社会貢献の機会が少ない場合もあるが、より積極的な活動展開を期待したい。

④ 特記事項

なし。

(内部用)

(3)経済学部（領域評価、評価対象人数:44 名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	9	20%	13	30%	13	30%	14	32%
2の評価	35	80%	25	57%	31	70%	25	57%
1の評価	0	0%	6	14%	0	0%	5	11%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

12 ポイントの教員 2 名、11 ポイントの教員 2 名、10 ポイントの教員 9 名。合計 13 名。

② 評価の低い教員

6 ポイントの教員 1 名、7 ポイントの教員 5 名。合計 6 名。

③ 評価結果の総括、問題点等

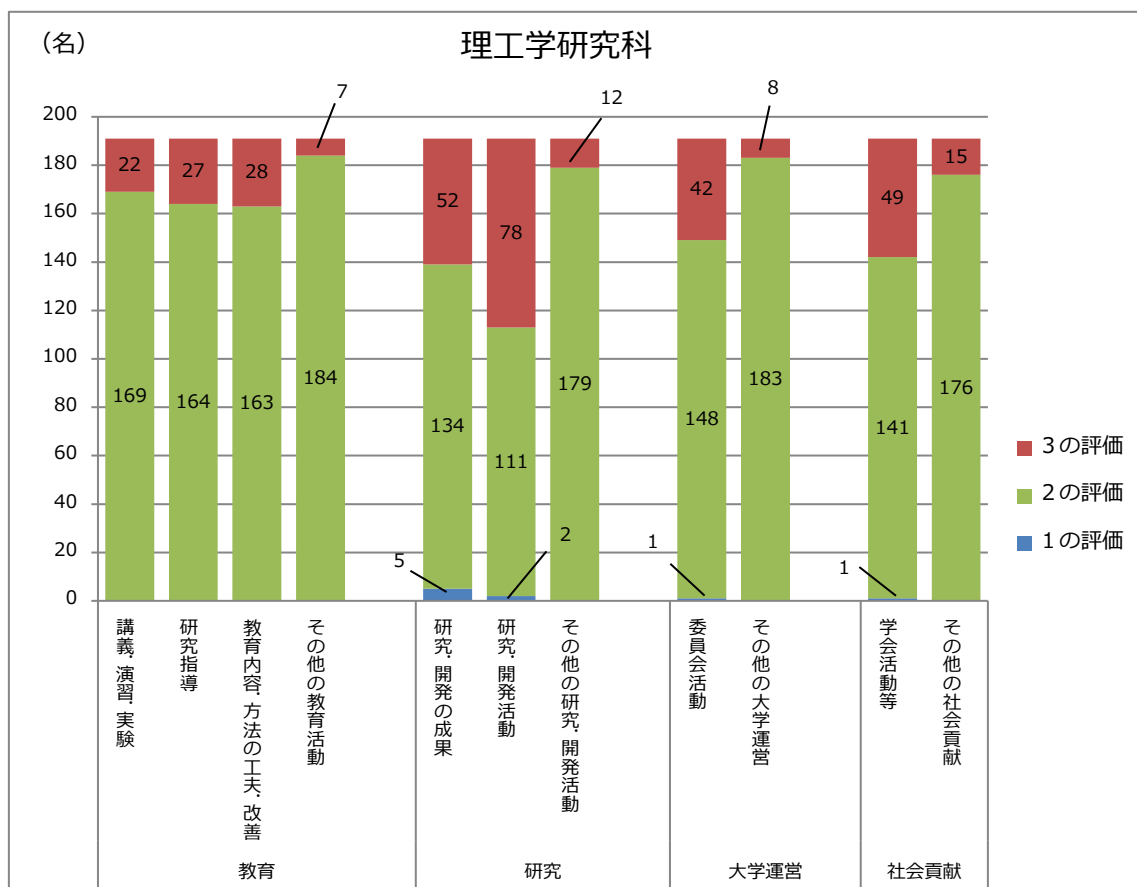
経済学部「2014 年度教員活動評価実施要項」に基づき、各教員の活動評価を行った。教育活動については、経済学部教員は、学部教育、夜間主コースの担当、博士前期課程を平等に負担し、加えて、博士後期課程の担当教員も少なくない。こうした教育負担は、他学部に比して相当重く、この結果、教育が「1」の評価を受けた教員は存在しない。なお、学生満足度が平均より低い教員に対しては、学部長コメントにおいて改善法を促しているだけでなく、今回から、学生の自修時間が平均よりも短い教員に対しても、自修を促す工夫をするよう注意を喚起した。研究活動については、研究活動が 2 年間空白である教員が 6 名存在していることは問題であり、学部長の個別コメントにおいて、研究活動の活性化を強い調子で促している。社会貢献活動も、これを全く行っていない教員が 5 名存在しており、注意を喚起している。全体としては、評価ポイントが 6 の教員は昨年度の 3 名から 1 名のみに減少したことは喜ばしい。今後いっそうの改善を求める予定である。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(4)理工学研究科（領域評価なし、評価対象人数 191 名）



領域 項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	22	12%	27	14%	28	15%	7	4%
2の評価	169	88%	164	86%	163	85%	184	96%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
領域 項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	52	27%	78	41%	12	6%		
2の評価	134	70%	111	58%	179	94%		
1の評価	5	3%	2	1%	0	0%		
領域 項目	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	42	22%	8	4%	49	26%	15	8%
2の評価	148	77%	183	96%	141	74%	176	92%
1の評価	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%

(内部用)

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

5点高い教員数4名(2%)、4点高い教員数22名(12%)、3点高い教員数27名(14%)、
2点高い教員数49名(26%)、1点高い教員数46名(24%)

② 評価の低い教員数

1点低い教員数1名(0.5%)、2点低い教員数3名(1.6%)

③ 評価結果の総括、問題点等

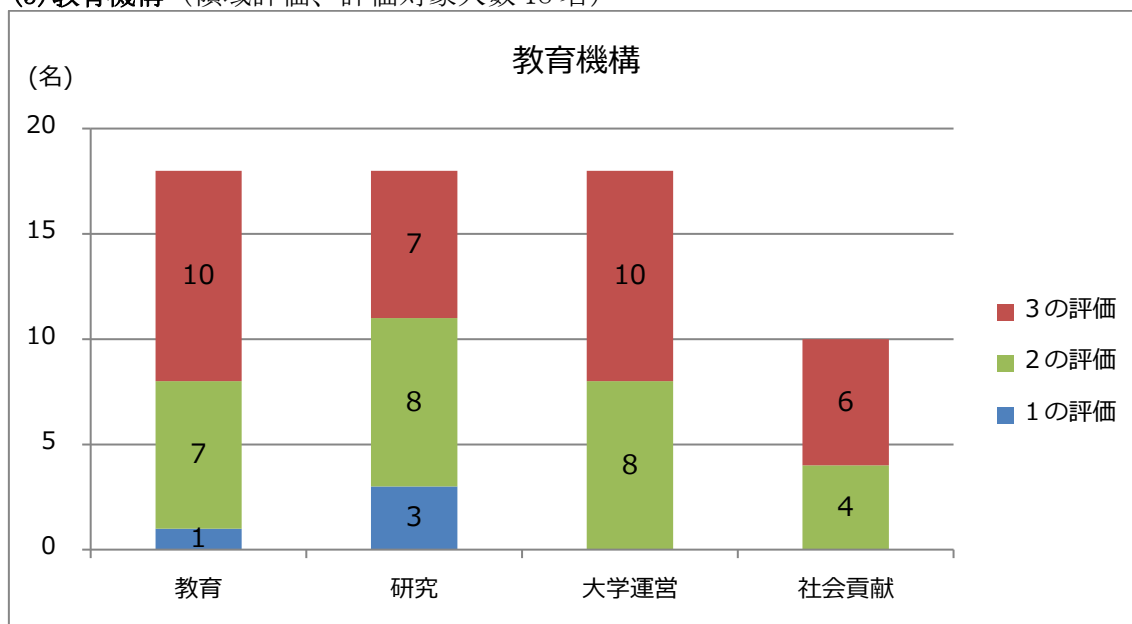
研究科長、副研究科長による評価委員会を設けて、従来の基準に従って評価を行った。
評価に当たっては各コース長の意見も参考にした。

④ 特記事項

なし。

(内部用)

(5)教育機構（領域評価、評価対象人数 18 名）



領域	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	10	56%	7	39%	10	56%	6	60%
2の評価	7	39%	8	44%	8	44%	4	40%
1の評価	1	6%	3	17%	0	0%	0	0%

※英語教育開発センターでは、社会貢献活動領域の評価を教育活動領域で実施することをセンターの評価実施要領で定めているため、社会貢献項目については、英語教育開発センター所属教員 8 名を除いた人数をグラフ化した。

○部局長コメント

① 評価の高い教員

4 領域で[3]の者は 1 名、3 領域で[3]の者は 5 名である。「教育活動」「研究・開発」「大学運営」「社会貢献」領域で評価[3]の者は、それぞれ 56%、39%、50%、60%であった。

② 評価の低い教員

2 領域以上で評価[1]となった者はいない。「教育活動」「研究・開発」で評価[1]の者は、それぞれ 1 名、3 名であった。うち、「教育活動」が[1]の者は、平成 26 年度 1 月着任の者である。

③ 評価結果の総括・問題点等

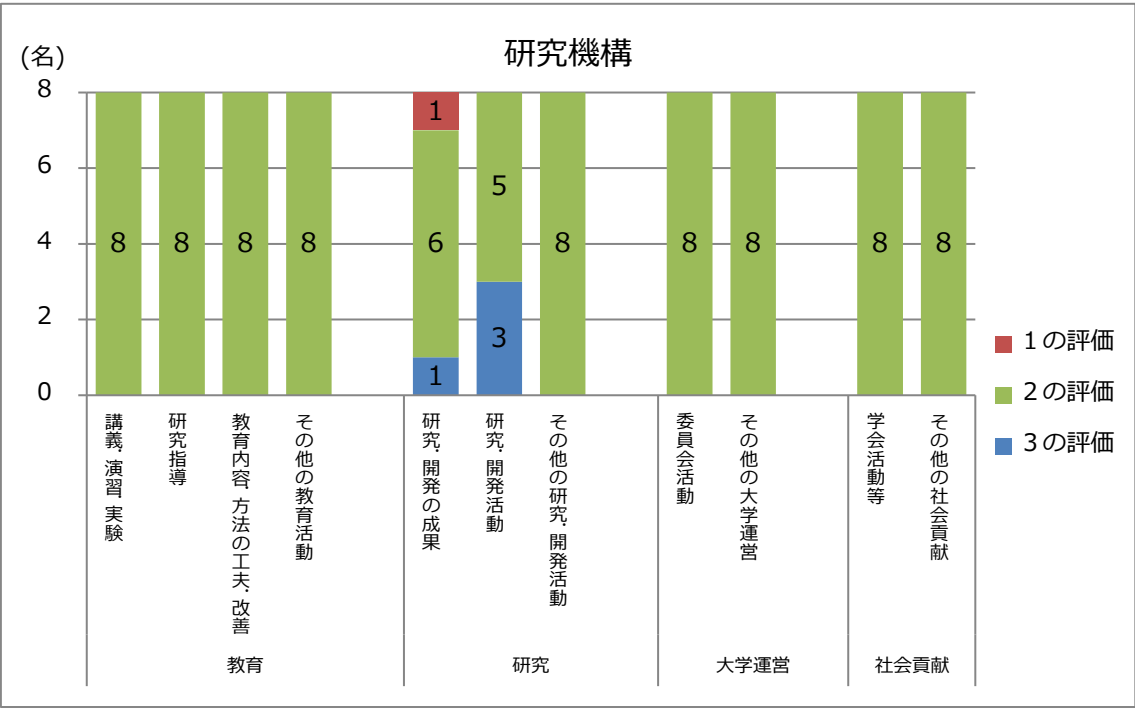
4 領域のなかで、評価[3]の割合が高いのは、「社会貢献」(60%)、「教育活動」(56%)であり、低いのは「研究・開発」(39%)である。一方、評価[1]の教員数が最も多いのは、「研究・開発」の 3 名であった。「教育活動」の評価が高く、「研究・開発」の評価が低いのは、教育機構に属する教員なので、妥当といえるものの、「研究・開発」にも力を注ぐ必要もある。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(6)研究機構（領域評価なし、評価対象人数 8 名）



※オープンイノベーションセンター（対象教員 1 名）は、他のセンターと評価項目が異なるため、グラフには含まない。

評価 項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2 の評価	8	100%	8	100%	8	100%	8	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
評価 項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3 の評価	1	13%	3	38%	0	0%		
2 の評価	6	75%	5	63%	8	100%		
1 の評価	1	13%	0	0%	0	0%		
評価 項目	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2 の評価	8	100%	8	100%	8	100%	8	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

2 名

(内部用)

② 評価の低い教員

なし

③ 評価結果の総括・問題点等

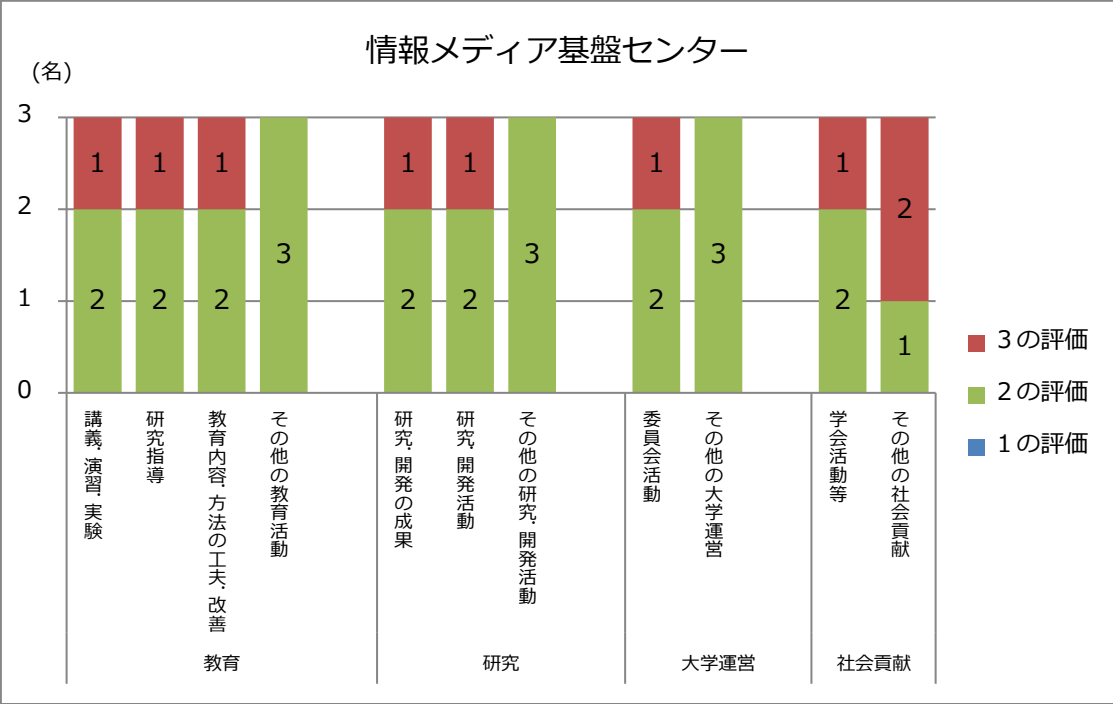
研究機構の所属教員は科学分析支援センター 5 名、オープンイノベーションセンター 2 名、研究企画推進室 6 名（今回の対象者 2 名）と少なく、評価基準を考えると総括しても統計的な意味は余りないと思う。特に、研究企画推進室所属のテニュアトラック教員は将来を考えると、次年度からは理工学研究科、人文社会研究科と連携して評価する必要があると考える。科学分析支援センター所属教員についても理工学研究科との人事交流を考えているので、テニュアトラック教員に準じて考えるべきと考えている。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(7)情報メディア基盤センター（領域評価なし、評価対象人数：3名）



評価項目	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	1	33%	1	33%	1	33%	0	0%
2の評価	2	67%	2	67%	2	67%	3	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
評価項目	研究							
	研究・開発の成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動			
	人数	%	人数	%	人数	%		
3の評価	1	33%	1	33%	0	0%		
2の評価	2	67%	2	67%	3	100%		
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%		
評価項目	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	1	33%	0	0%	1	33%	2	67%
2の評価	2	67%	3	100%	2	67%	1	33%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

2名

② 評価の低い教員

(内部用)

なし

③ 評価結果の総括・問題点等

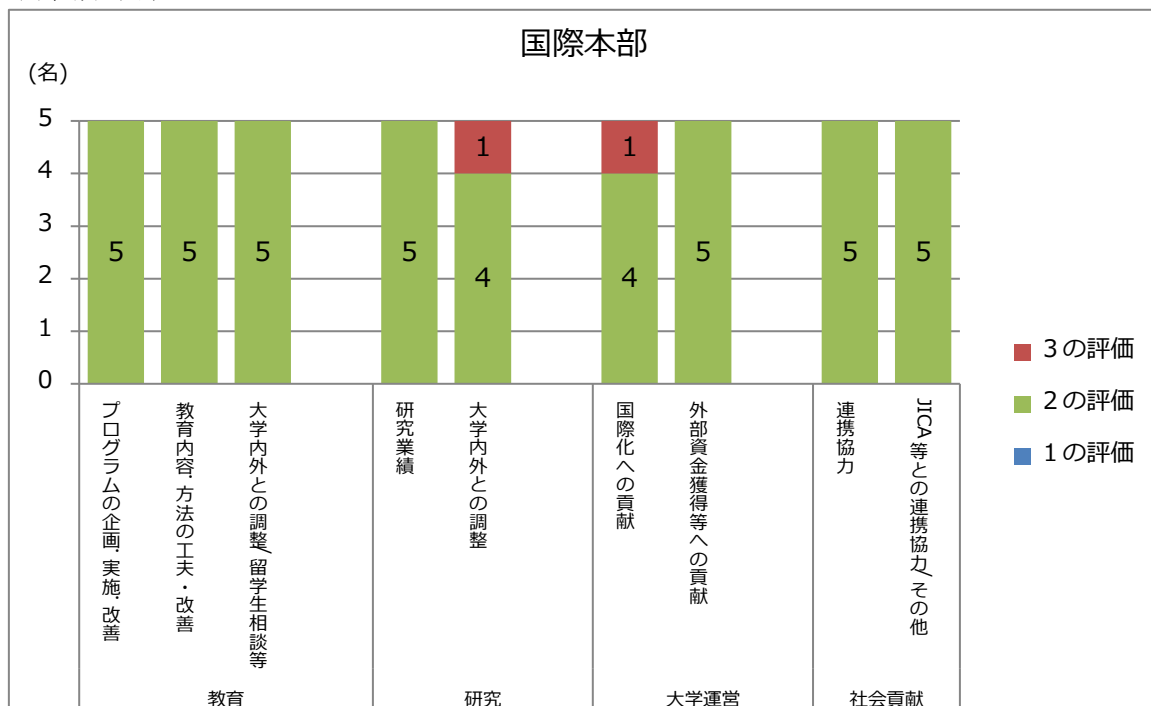
各教員は、それぞれ高いレベルを目指した研究活動を積極的に行っている。また、教育においても、学生と正面から向き合った指導を行っている。准教授の今後における、より多くの大学院生の社会への輩出を期待したい。

④ 特記事項

特になし。

(内部用)

(8) 国際本部（領域評価なし、評価対象人数：5名）



評価項目	教育						研究			
	プログラムの企画・実施・改善		教育内容・方法の工夫・改善		大学内外との調整/留学生相談等		研究業績		大学内外との調整	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%
2の評価	5	100%	5	100%	5	100%	5	100%	4	80%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

評価項目	大学運営				社会貢献			
	国際化への貢献		外部資金獲得等への貢献		連携協力		JICA等との連携協力/その他	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3の評価	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%
2の評価	4	80%	5	100%	5	100%	5	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員

1名

② 評価の低い教員

0名

③ 評価結果の総括、問題点等

教員活動評価については、教員活動評価実施要領に則り適切に行い、その結果を踏まえ、国際本部の各教員は、本学の国際化の基盤作りに貢献していると判断した。

④ 特記事項

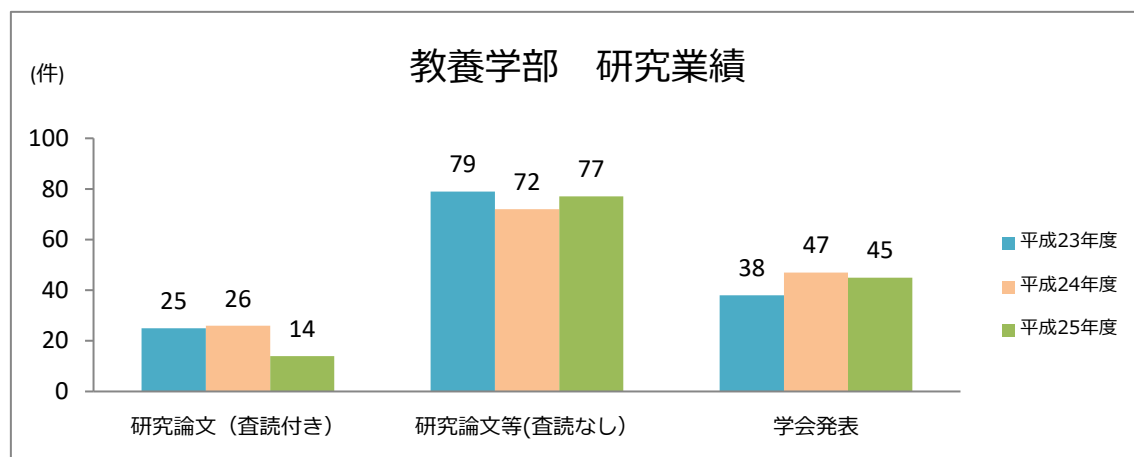
特になし。

(参考)

研究業績の推移（過去3年間：平成23年度実績～平成25年度実績）

評価対象教員の提出した過去3年分の教員活動報告書に記載された査読付き研究論文、研究論文等（紀要を含む）、学会発表の各データを部局ごとに集計した。

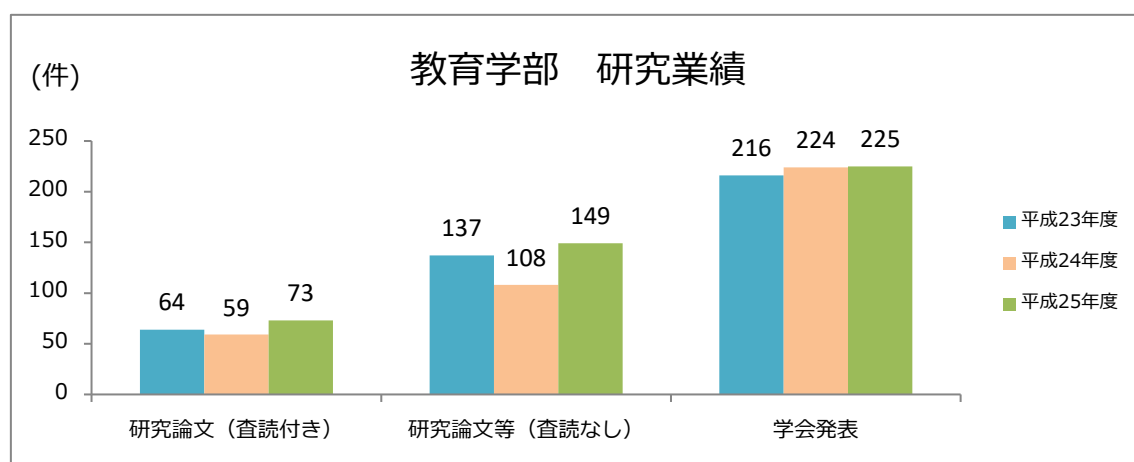
(1) 教養学部



実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（査読なし）		学会発表	
平成 23 年度	50 名	25 件	(0. 50)	79 件	(1. 58)	38 件	(0. 76)
平成 24 年度	47 名	26 件	(0. 55)	72 件	(1. 53)	47 件	(1. 00)
平成 25 年度	46 名	14 件	(0. 30)	77 件	(1. 67)	45 件	(0. 98)

()…1人あたりの業績

(2) 教育学部（附属教育実践総合センターを含む）

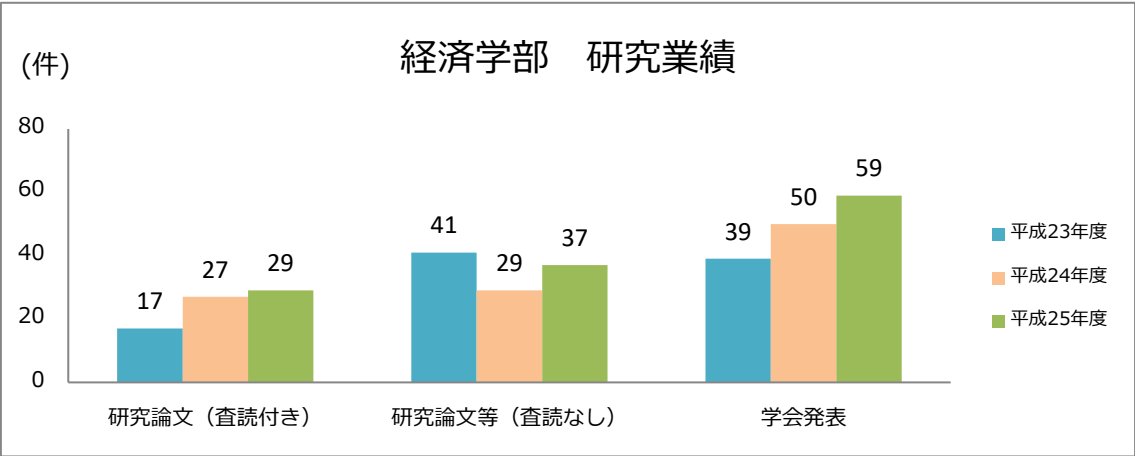


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（査読なし）		学会発表	
平成 23 年度	106 名	64 件	(0. 60)	137 件	(1. 29)	216 件	(2. 04)
平成 24 年度	101 名	59 件	(0. 58)	108 件	(1. 07)	224 件	(2. 22)
平成 25 年度	103 名	73 件	(0. 71)	149 件	(1. 45)	225 件	(2. 18)

()…1人あたりの業績

(参考)

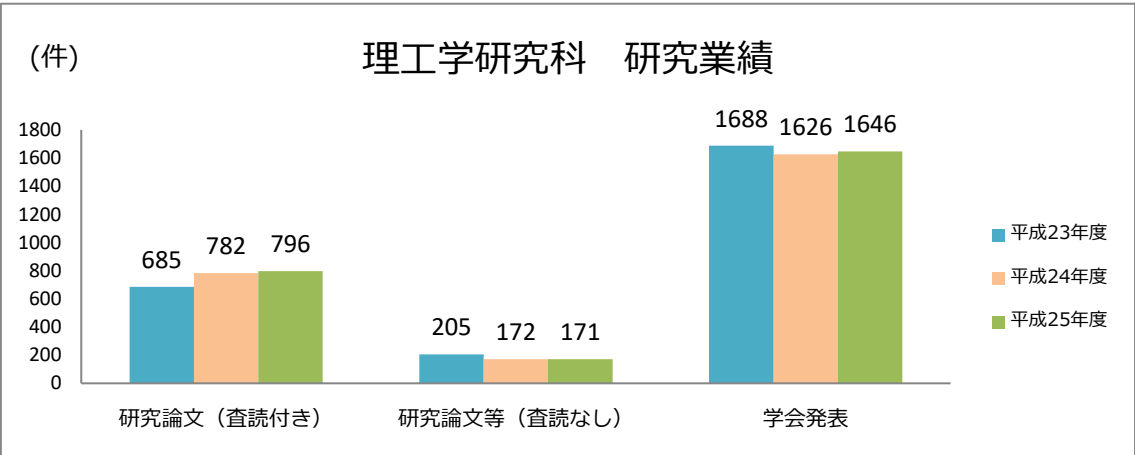
(3) 経済学部



実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (査読なし)		学会発表	
平成 23 年度	52 名	17 件	(0.33)	41 件	(0.79)	39 件	(0.75)
平成 24 年度	50 名	27 件	(0.54)	29 件	(0.58)	50 件	(1.00)
平成 25 年度	44 名	29 件	(0.66)	37 件	(0.84)	59 件	(1.34)

()… 1 人あたりの業績

(4) 理工学研究科

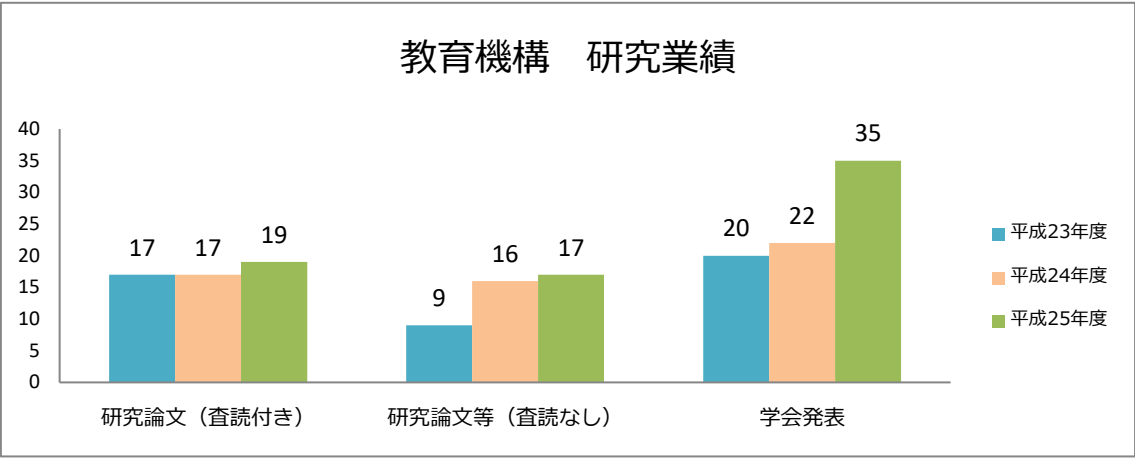


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (査読なし)		学会発表	
平成 23 年度	200 名	685 件	(3.43)	205 件	(1.03)	1688 件	(8.44)
平成 24 年度	186 名	782 件	(4.20)	172 件	(0.92)	1626 件	(8.74)
平成 25 年度	191 名	796 件	(4.17)	171 件	(0.90)	1646 件	(8.62)

()… 1 人あたりの業績

(参考)

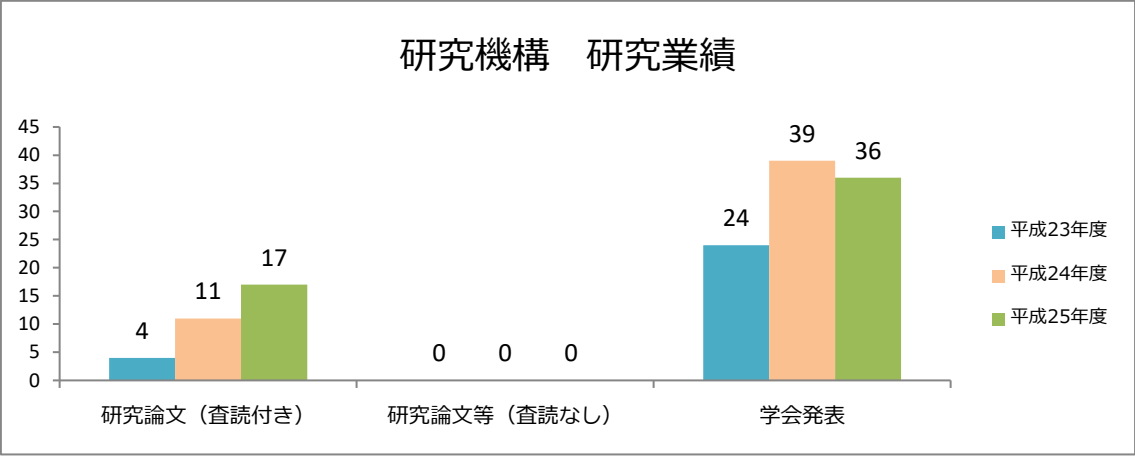
(5) 教育機構



実績年度	評価 対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (査読なし)		学会発表	
平成 23 年度	16 名	17 件	(1.06)	9 件	(0.56)	20 件	(1.25)
平成 24 年度	16 名	17 件	(1.06)	16 件	(1.00)	22 件	(1.38)
平成 25 年度	18 名	19 件	(1.06)	17 件	(0.94)	35 件	(1.94)

()…1人あたりの業績

(6) 研究機構

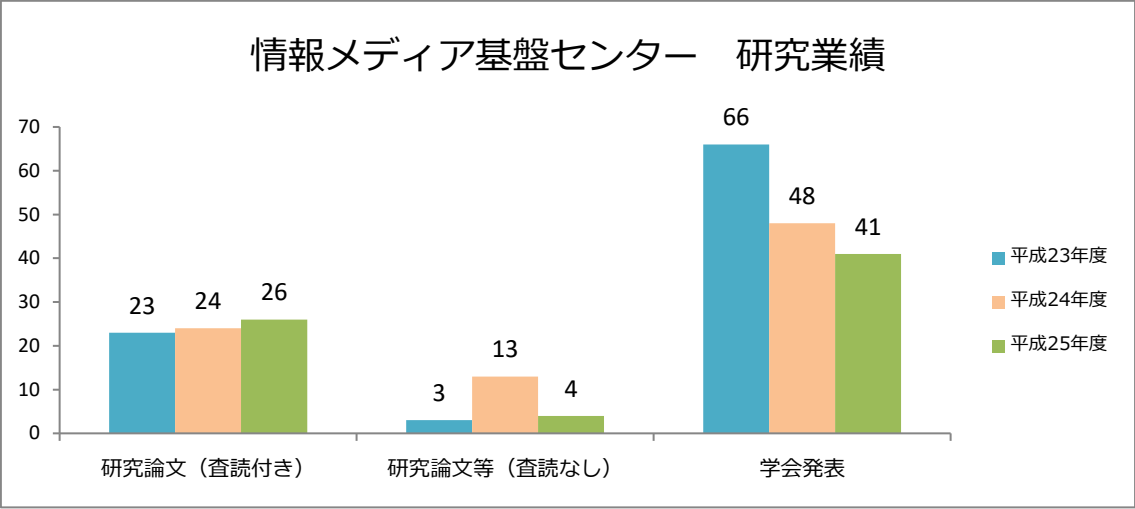


実績年度	評価 対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (査読なし)		学会発表	
平成 23 年度	15 名	4 件	(0.27)	0 件	(0.00)	24 件	(1.60)
平成 24 年度	17 名	11 件	(0.65)	0 件	(0.00)	39 件	(2.29)
平成 25 年度	8 名	17 件	(2.13)	0 件	(0.00)	36 件	(4.50)

()…1人あたりの業績

(参考)

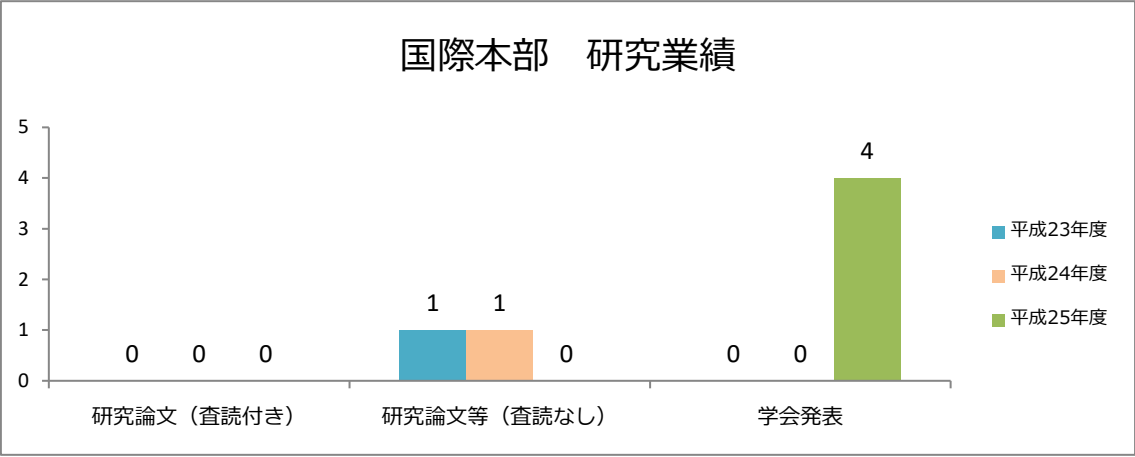
(7) 情報メディア基盤センター



実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（査読なし）		学会発表	
平成 23 年度	3 名	23 件	(7.67)	3 件	(1.00)	66 件	(22.00)
平成 24 年度	3 名	24 件	(8.00)	13 件	(4.33)	48 件	(16.00)
平成 25 年度	3 名	26 件	(8.67)	4 件	(1.33)	41 件	(13.67)

()… 1 人あたりの業績

(8) 国際本部



実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（査読なし）		学会発表	
平成 23 年度	3 名	0 件	(0.00)	1 件	(0.33)	0 件	(0.00)
平成 24 年度	4 名	0 件	(0.00)	1 件	(0.25)	0 件	(0.00)
平成 25 年度	5 名	0 件	(0.00)	0 件	(0.00)	4 件	(0.80)

()… 1 人あたりの業績